

立川市の環境についての アンケート集計結果報告書 (速報)

令和5年11月
立川市

目次

1 調査の概要	1
1-1 目的	1
1-2 調査対象・調査方法	1
1-3 調査項目	2
2 市民アンケート調査の結果	3
2-1 回答者の属性について	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 居住年数	3
(4) 居住地区	3
(5) 住居の形態	4
(6) 世帯構成	4
(7) 自動車所有台数	4
2-2 立川市の環境に対する考えや認識について	5
(1) 環境問題に対する姿勢	5
(2) 立川市の将来の理想的な環境イメージ	6
(3) 将来に向けて残したい身近な自然や環境	7
2-3 立川市の環境の満足度と重要度について	8
(1) 立川市の環境に対する満足度	8
(2) 立川市の環境に関する重要度	10
(3) 立川市の環境に対する重要度と満足度の関係	12
2-4 環境に関する取組状況について	14
(1) 環境に関する取組状況	14
(2) 環境に関する取組を今後も行わない理由	17
(3) 地球温暖化対策設備機器の導入状況	18
(4) 地球温暖化対策設備機器を導入しない理由	20
(5) 市の環境情報の入手方法	21
2-5 自由意見	23
3 事業者アンケート調査の結果	24
3-1 事業所の属性について	24
(1) 業種	24
(2) 従業員規模	24
(3) 所在地	24
(4) 建物の形態	25
(5) 立川市での事業年数	25

3-2 立川市の環境に対する考えや認識について	26
(1) 環境保全への取組に対する考え方	26
3-3 事業所の環境活動について	27
(1) 事業所で取り組んでいる環境活動	27
(2) 地球温暖化対策設備機器の導入状況	30
3-4 環境活動における効果と課題について	32
(1) 環境活動で得られた効果	32
(2) 環境活動を進めるにあたっての課題	33
3-5 望ましい支援について	34
(1) 市が実施すると望ましいサポート	34
(2) 市の環境情報の入手方法	35
3-6 地域の環境活動について	36
(1) 取り組んでいる地域環境活動	36
(2) 協力、支援できる活動分野	37
(3) 協力、支援できる取組	38
3-7 自由意見	39
4 調査結果のまとめ	40
4-1 市民意識調査結果	40
4-2 事業者意識調査結果	41
巻末資料	資-1

1 調査の概要

1-1 目的

立川市では、平成 27 年度に「立川市第 2 次環境基本計画」を策定し、環境の保全及び創造と地球温暖化対策に関する施策を推進してきました。

このたび、現計画の期間が満了を迎えることと、気候変動対策など昨今の国内外の動向の変化を受け、令和 7 年度を初年度とする「立川市第 3 次環境基本計画及び立川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編・区域施策編）」を策定することとなりました。

新たな計画を策定するにあたり、市民の皆様から、環境に関する取組状況などをお伺いするため、アンケート調査を実施しました。

1-2 調査対象・調査方法

	市民	事業者
調査対象	立川市に住む満 16 歳以上の 2,000 人	立川市内の事業所 400 か所
抽出法	「住民基本台帳」からの 無作為抽出	市内事業所からの抽出
調査方法	配付方法：調査票の郵送 回収方法：返信用封筒による郵送及び WEB 回答	
調査期間	令和 5 年 9 月 16 日～10 月 6 日	
配布数	2,000	400
回収数 (うち WEB 回答数)	583 (156)	112 (30)
回収率	29.2%	28.0%

1-3 調査項目

市民	事業者
①環境問題への姿勢	①環境保全への取組への考え方
②将来の理想的な環境イメージ	②事業所の環境活動と今後の予定
③将来に向けて残したい身近な自然や環境	③地球温暖化対策設備導入状況及び今後の意向
④立川市の環境の満足度と重要度	④環境活動における効果と課題
⑤普段取り組んでいる環境に関する取組、今後の予定	⑤市が実施すると望ましいサポート
⑥地球温暖化対策設備導入状況及び今後の意向	⑥環境情報の入手方法
⑦環境情報の入手方法	⑦地域での環境活動、協力・支援できる分野、取組

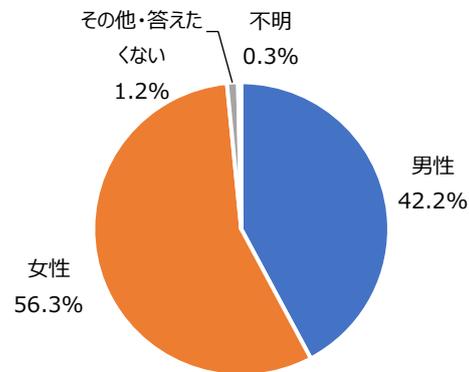
※集計にあたっての留意点

- ・回答結果は、小数点第2位を四捨五入のうえ割合を示しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、全体の回答数に対する割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数（有効回答数）を示しています。
- ・各設問において、回答の記入がないもの、回答が識別できないものについては、「不明」として扱っています。

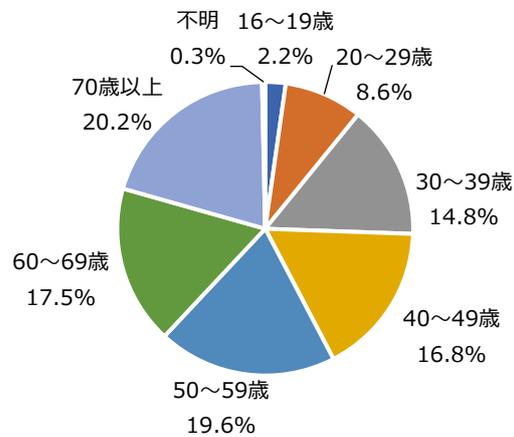
2 市民アンケート調査の結果

2-1 回答者の属性について

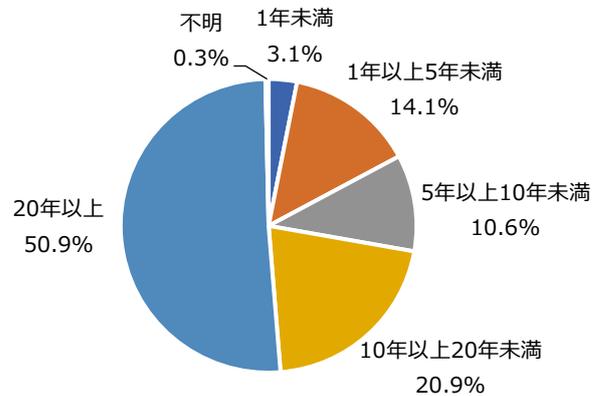
(1) 性別



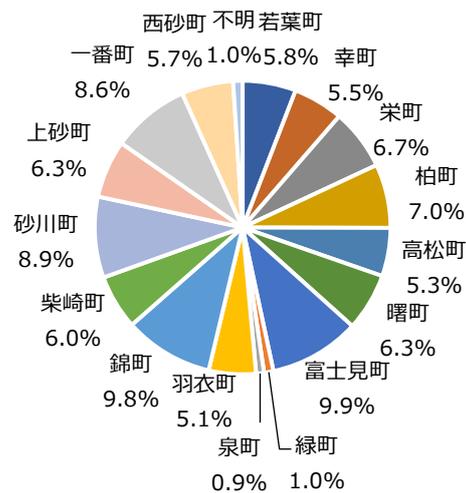
(2) 年齢



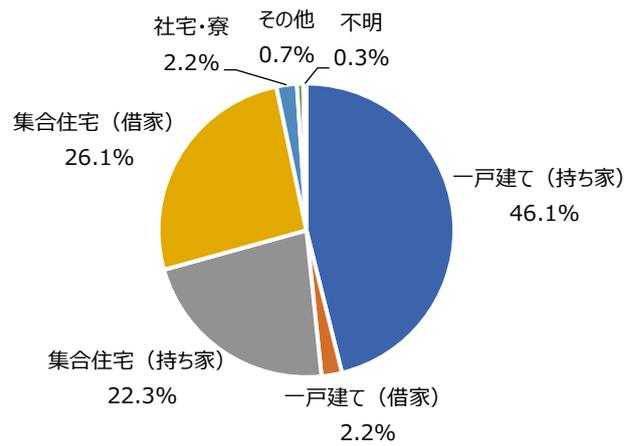
(3) 居住年数



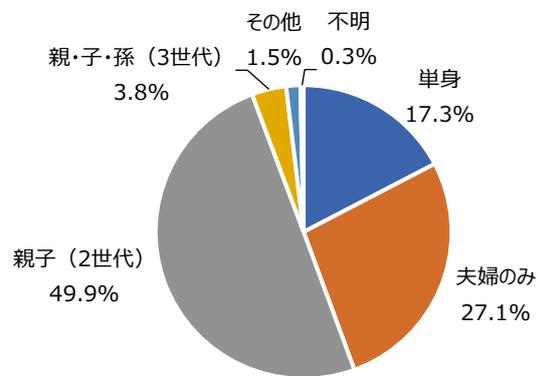
(4) 居住地区



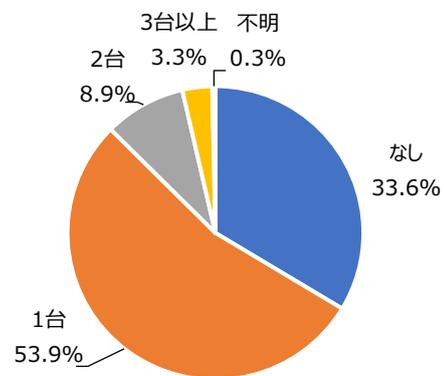
(5) 住居の形態



(6) 世帯構成



(7) 自動車所有台数



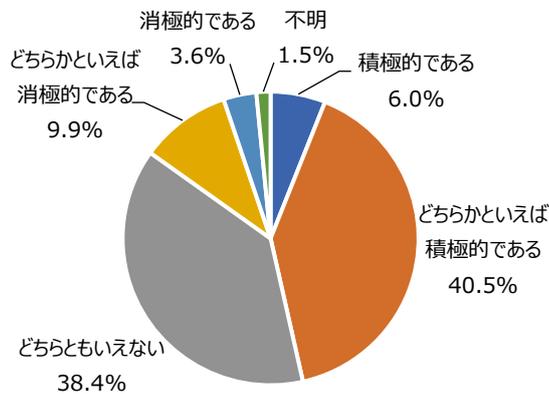
2-2 立川市の環境に対する考えや認識について

(1) 環境問題に対する姿勢

問8 あなたは環境問題に対して積極的に取り組んでいると思いますか。あてはまる番号1つを○で囲んでください。

環境問題に対して積極的に取り組んでいるかを聞いたところ、「どちらかといえば積極的である(40.5%)」が最も多く、次いで、「どちらともいえない(38.4%)」、「どちらかといえば消極的である(9.9%)」と続いています。

前回の平成30年度の調査結果と比較すると、「積極的である」「どちらかといえば積極的である」を合わせた回答率が47.2%(平成30年度)から46.5%(令和5年度)と微減している一方、「消極的である」「どちらかといえば消極的である」を合わせた回答率が11.1%(平成30年度)から13.6%(令和5年度)に増加しています。



<前回調査との比較>

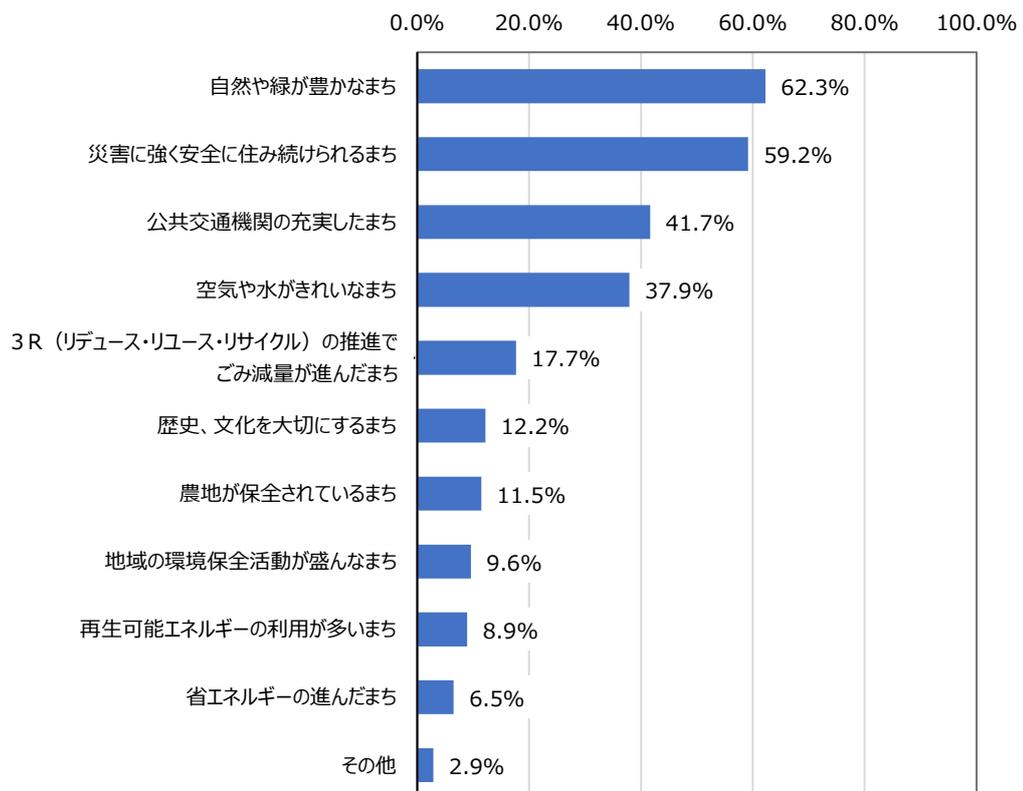
NO.	カテゴリー名	令和5年度	平成30年度
1	積極的である	6.0%	5.8%
2	どちらかといえば積極的である	40.5%	41.3%
3	どちらともいえない	38.4%	40.4%
4	どちらかといえば消極的である	9.9%	8.7%
5	消極的である	3.6%	2.4%
	不明	1.5%	1.4%
	全体	100.0%	100.0%

※端数を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

(2) 立川市の将来の理想的な環境イメージ

問9 立川市の将来の理想的な環境イメージについて、あなたの考えに近いものは何ですか。あてはまる番号を3つまで○で囲んでください。

将来の理想的な環境イメージについて聞いたところ、「自然や緑が豊かなまち(62.3%)」が最も多く、次いで、「災害に強く安全に住み続けられるまち(59.2%)」、「公共交通機関の充実したまち(41.7%)」、「空気や水がきれいなまち(37.9%)」の回答が多くなっています。



◆その他回答（抜粋）

- 商業施設、公共施設、自然の調和のとれたまち
- 人にやさしいまち
- 騒音が少ないまち
- ゴミの分別が少ない街
- 路上や公園での飲酒喫煙のないまち
- 原発も深めた安価かつ安定したエネルギー供給の確保

など

(3) 将来に向けて残したい身近な自然や環境

問10 立川市内の身近な自然や環境で、将来に向けて残したい場所がある場合は、具体的な地名とその理由をご記入ください。

立川市内の身近な自然や環境で、将来に向けて残したい場所を聞いたところ、延べ 507 件の回答がありました。

※この設問の集計結果については、最終報告書にて追記いたします

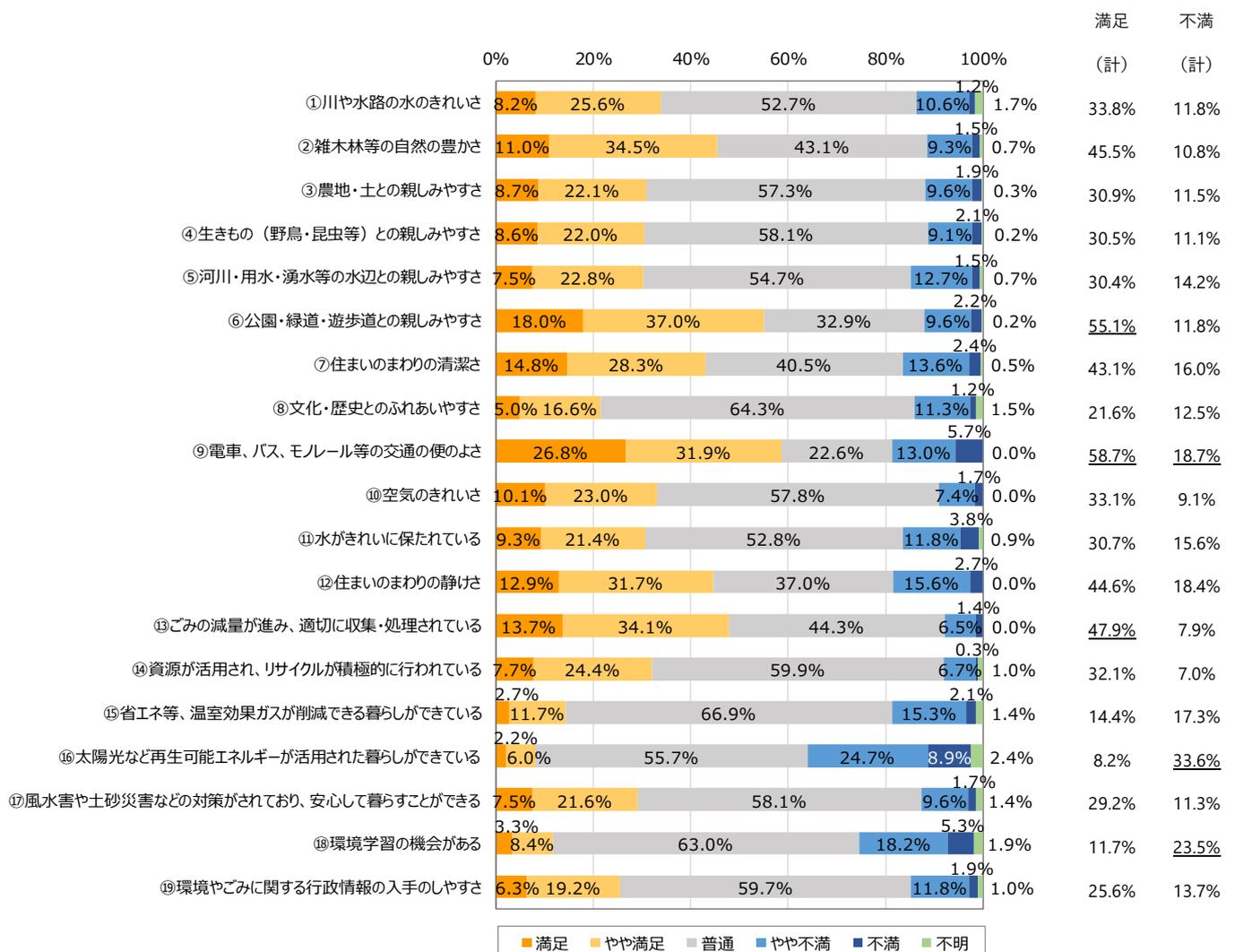
2-3 立川市の環境の満足度と重要度について

(1) 立川市の環境に対する満足度

問 1 1 【A】立川市の環境について、どのように感じていますか。各項目の満足度について、あてはまる番号 1～5 の中から 1 つだけ○で囲んでください。

立川市の環境についてどのように感じていることを聞いたところ、『満足(計)』(「満足」「やや満足」の合計)については、「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ(58.7%)」が最も多く、次いで、「⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ(55.1%)」、「⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている(47.9%)」の回答が多くなっています。一方、『不満(計)』(「やや不満」「不満」の合計)については、「⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができている(33.6%)」が最も多く、次いで「⑱環境学習の機会がある(23.5%)」、「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ(18.7%)」の回答が多くなっています。

「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ」については、『満足(計)』、『不満(計)』の双方で上位にあがっており、居住する地域によって回答差があることが伺えます。



『満足(計)』: 「満足」「やや満足」の合計
『不満(計)』: 「やや不満」「不満」の合計

<前回調査との比較>

●各項目の比較

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		満足	満足	やや満足	やや満足	普通	普通
①	川や水路のきれいさ	8.2%	10.4%	25.6%	25.5%	52.7%	47.4%
②	雑木林等の自然の豊かさ	11.0%	13.0%	34.5%	27.6%	43.1%	40.8%
③	農地・土との親しみやすさ	8.7%	7.2%	22.1%	17.6%	57.3%	55.3%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	8.6%	6.7%	22.0%	19.0%	58.1%	52.4%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	7.5%	6.2%	22.8%	20.5%	54.7%	49.2%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	18.0%	17.3%	37.0%	33.4%	32.9%	30.2%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	14.8%	14.3%	28.3%	29.5%	40.5%	39.4%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	5.0%	4.6%	16.6%	10.7%	64.3%	64.8%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	26.8%	26.5%	31.9%	31.3%	22.6%	19.7%
⑩	空気のきれいさ	10.1%	11.9%	23.0%	24.3%	57.8%	50.6%
⑫	住まいのまわりの静けさ	12.9%	18.9%	31.7%	25.8%	37.0%	34.4%
⑲	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	6.3%	14.3%	19.2%	29.0%	59.7%	45.9%

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		やや不満	やや不満	不満	不満
①	川や水路のきれいさ	10.6%	12.2%	1.2%	2.4%
②	雑木林等の自然の豊かさ	9.3%	13.0%	1.5%	2.4%
③	農地・土との親しみやすさ	9.6%	11.9%	1.9%	3.9%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	9.1%	15.7%	2.1%	3.5%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	12.7%	16.9%	1.5%	4.9%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	9.6%	13.2%	2.2%	3.5%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	13.6%	11.9%	2.4%	3.1%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	11.3%	14.3%	1.2%	2.9%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	13.0%	12.3%	5.7%	8.0%
⑩	空気のきれいさ	7.4%	9.4%	1.7%	2.5%
⑫	住まいのまわりの静けさ	15.6%	13.9%	2.7%	5.5%
⑲	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	11.8%	7.5%	1.9%	1.9%

●『満足（計）』、『不満（計）』の比較

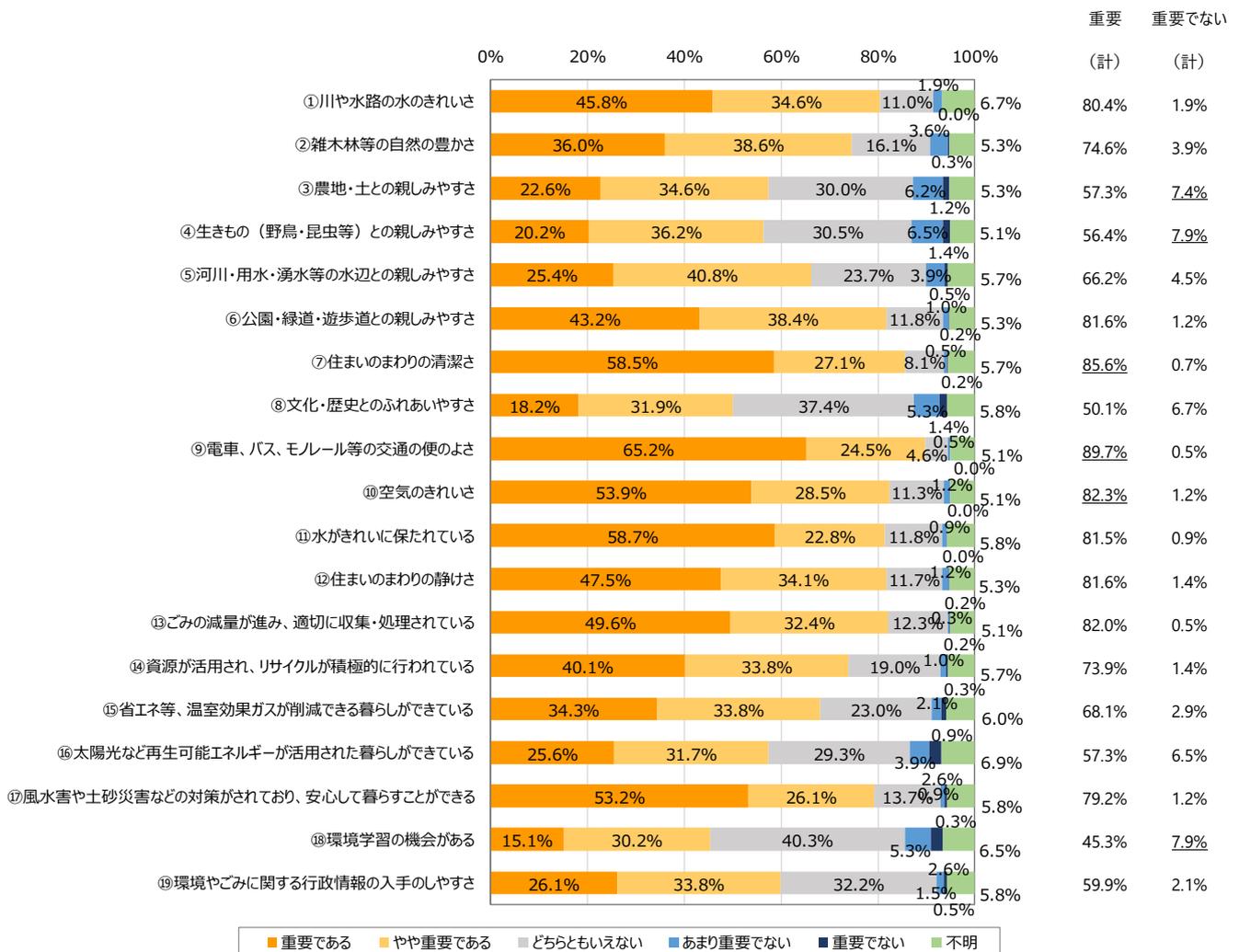
NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		満足+やや満足	満足+やや満足	普通	普通	やや不満+不満	やや不満+不満
①	川や水路のきれいさ	33.8%	35.9%	52.7%	47.4%	11.8%	14.6%
②	雑木林等の自然の豊かさ	45.5%	40.6%	43.1%	40.8%	10.8%	15.4%
③	農地・土との親しみやすさ	30.9%	24.8%	57.3%	55.3%	11.5%	15.8%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	30.5%	25.7%	58.1%	52.4%	11.1%	19.1%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	30.4%	26.8%	54.7%	49.2%	14.2%	21.8%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	55.1%	50.8%	32.9%	30.2%	11.8%	16.6%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	43.1%	43.8%	40.5%	39.4%	16.0%	15.0%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	21.6%	15.3%	64.3%	64.8%	12.5%	17.2%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	58.7%	57.8%	22.6%	19.7%	18.7%	20.4%
⑩	空気のきれいさ	33.1%	36.2%	57.8%	50.6%	9.1%	11.9%
⑫	住まいのまわりの静けさ	44.6%	44.7%	37.0%	34.4%	18.4%	19.4%
⑲	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	25.6%	43.3%	59.7%	45.9%	13.7%	9.4%

※端数を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

(2) 立川市の環境に関する重要度

問 1 1 【B】立川市の環境について、どのように感じていますか。各項目の重要度について、あてはまる番号 1～5 の中から 1 つだけ○で囲んでください。

立川市の環境についてどのように感じていることを聞いたところ、『重要(計)』『重要』『やや重要』の合計)については、「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ(89.7%)」が最も多く、次いで、「⑦住まいのまわりの清潔さ(85.6%)」、「⑩空気のきれいさ(82.3%)」の回答が多くなっています。一方、『重要でない(計)』『あまり重要でない』『重要でない』の合計)については、「④生きもの(野鳥・昆虫等)との親しみやすさ(7.9%)」と「⑱環境学習の機会がある(7.9%)」が最も多く、次いで「③農地・土との親しみやすさ(7.4%)」の回答が多くなっています。



『重要(計)』:「重要」「やや重要」の合計

『重要でない(計)』:「あまり重要でない」「重要でない」の合計

<前回調査との比較>

●各項目の比較

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		重要	重要	やや重要	やや重要	どちらともいえない	どちらともいえない
①	川や水路のきれいさ	45.8%	56.4%	34.6%	28.0%	11.0%	6.7%
②	雑木林等の自然の豊かさ	36.0%	43.4%	38.6%	35.0%	16.1%	11.8%
③	農地・土との親しみやすさ	22.6%	27.0%	34.6%	32.2%	30.0%	25.4%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	20.2%	25.2%	36.2%	34.1%	30.5%	24.8%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	25.4%	32.3%	40.8%	38.3%	23.7%	17.8%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	43.2%	48.3%	38.4%	34.0%	11.8%	8.6%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	58.5%	63.1%	27.1%	22.7%	8.1%	5.4%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	18.2%	19.6%	31.9%	34.4%	37.4%	30.8%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	65.2%	64.2%	24.5%	23.0%	4.6%	2.8%
⑩	空気のきれいさ	53.9%	64.5%	28.5%	21.2%	11.3%	5.3%
⑫	住まいのまわりの静けさ	47.5%	46.9%	34.1%	34.3%	11.7%	8.5%
⑲	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	26.1%	44.0%	33.8%	34.5%	32.2%	11.1%

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		あまり重要でない	あまり重要でない	重要でない	重要でない
①	川や水路のきれいさ	1.9%	0.4%	0.0%	0.1%
②	雑木林等の自然の豊かさ	3.6%	1.2%	0.3%	0.3%
③	農地・土との親しみやすさ	6.2%	4.4%	1.2%	1.0%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	6.5%	5.0%	1.4%	2.1%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	3.9%	2.4%	0.5%	0.7%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	1.0%	0.8%	0.2%	0.0%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	0.5%	0.1%	0.2%	0.0%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	5.3%	4.3%	1.4%	1.5%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	0.5%	0.6%	0.0%	0.3%
⑩	空気のきれいさ	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
⑫	住まいのまわりの静けさ	1.2%	0.7%	0.2%	0.1%
⑲	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	1.5%	0.7%	0.5%	0.0%

●『重要（計）』、『重要でない（計）』の比較

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		重要+やや重要	重要+やや重要	どちらともいえない	どちらともいえない	あまり重要でない+重要でない	あまり重要でない+重要でない
①	川や水路のきれいさ	80.4%	84.5%	11.0%	6.7%	1.9%	0.6%
②	雑木林等の自然の豊かさ	74.6%	78.4%	16.1%	11.8%	3.9%	1.5%
③	農地・土との親しみやすさ	57.3%	59.2%	30.0%	25.4%	7.4%	5.4%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	56.4%	59.4%	30.5%	24.8%	7.9%	7.1%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	66.2%	70.6%	23.7%	17.8%	4.5%	3.1%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	81.6%	82.2%	11.8%	8.6%	1.2%	0.8%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	85.6%	85.9%	8.1%	5.4%	0.7%	0.1%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	50.1%	54.0%	37.4%	30.8%	6.7%	5.8%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	89.7%	87.2%	4.6%	2.8%	0.5%	0.8%
⑩	空気のきれいさ	82.3%	85.7%	11.3%	5.3%	1.2%	0.0%
⑫	住まいのまわりの静けさ	81.6%	81.1%	11.7%	8.5%	1.4%	0.8%
⑲	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	59.9%	78.5%	32.2%	11.1%	2.1%	0.7%

※端数を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

(3) 立川市の環境に対する重要度と満足度の関係

環境に対する重要度と満足度の関係性を比較するため、以下の方法でそれぞれの項目について重要度と満足度を算出しました。

$$\begin{aligned} & \text{「立川市の環境の重要度」(重要度点)} \\ = & \frac{\text{「重要」回答数} \times 5 + \text{「やや重要」回答数} \times 4 + \text{「どちらともいえない」回答数} \times 3 + \text{「あまり重要でない」回答数} \times 2 + \text{「重要でない」回答数} \times 1}{\text{回答者数(不明・無回答除く)}} \end{aligned}$$

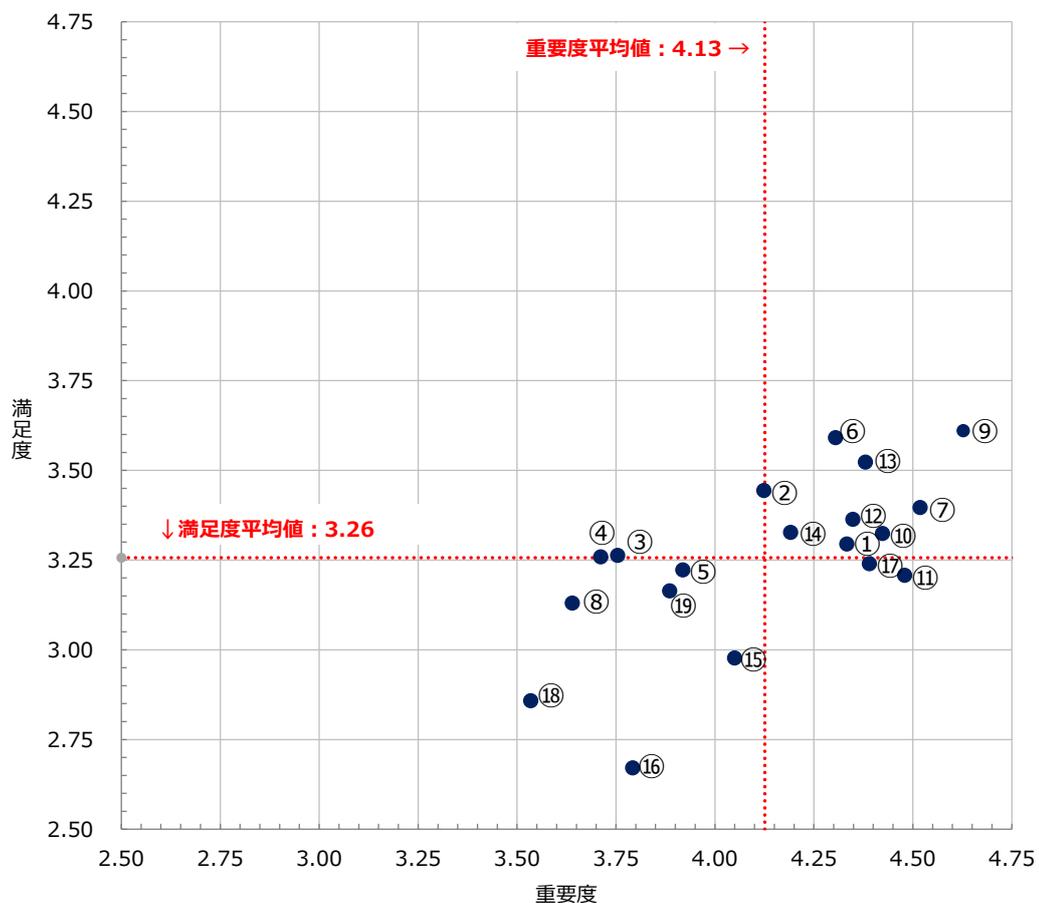
$$\begin{aligned} & \text{「立川市の環境の満足度」(満足度点)} \\ = & \frac{\text{「満足」回答数} \times 5 + \text{「やや満足」回答数} \times 4 + \text{「普通」回答数} \times 3 + \text{「やや不満」回答数} \times 2 + \text{「不満」回答数} \times 1}{\text{回答者数(不明・無回答除く)}} \end{aligned}$$

項目	重要度 (平均値)	満足度 (平均値)
①川や水路の水のきれいさ	4.33	3.29
②雑木林等の自然の豊かさ	4.12	3.44
③農地・土との親しみやすさ	3.75	3.26
④生きもの(野鳥・昆虫等)との親しみやすさ	3.71	3.26
⑤河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	3.92	3.22
⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	4.30	3.59
⑦住まいのまわりの清潔さ	4.52	3.40
⑧文化・歴史とのふれあいやすさ	3.64	3.13
⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	4.63	3.61
⑩空気のきれいさ	4.42	3.32
⑪水がきれいに保たれている	4.48	3.21
⑫住まいのまわりの静けさ	4.35	3.36
⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている	4.38	3.52
⑭資源が活用され、リサイクルが積極的に行われている	4.19	3.33
⑮省エネ等、温室効果ガスが削減できる暮らしができています	4.05	2.98
⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています	3.79	2.67
⑰風水害や土砂災害などの対策がされており、安心して暮らすことができます	4.39	3.24
⑱環境学習の機会がある	3.53	2.86
⑲環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	3.89	3.16
全体	4.13	3.26

その結果、重要度・満足度ともに平均より高い項目は 8 項目あり、なかでも「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ」、「⑦住まいのまわりの清潔さ」、「⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ」、「⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている」が高くなっています。

一方、重要度・満足度ともに平均より低い項目は 7 項目で、なかでも「⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています」、「⑱環境学習の機会がある」が低くなっています。

重要度が高いものの満足度が低い項目は、「⑪水がきれいに保たれている」、「⑰風水害や土砂災害などの対策がされており、安心して暮らすことができる」の 2 項目でした。



- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| ①川や水路の水のきれいさ | ②雑木林等の自然の豊かさ |
| ③農地・土との親しみやすさ | ④生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ |
| ⑤河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ | ⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ |
| ⑦住まいのまわりの清潔さ | ⑧文化・歴史とのふれあいやすさ |
| ⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ | ⑩空気のきれいさ |
| ⑪水がきれいに保たれている | ⑫住まいのまわりの静けさ |
| ⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている | ⑭資源が活用され、リサイクルが積極的に行われている |
| ⑮省エネ等、温室効果ガスが削減できる暮らしができています | |
| ⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています | |
| ⑰風水害や土砂災害などの対策がされており、安心して暮らすことができる | |
| ⑱環境学習の機会がある | ⑲環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ |

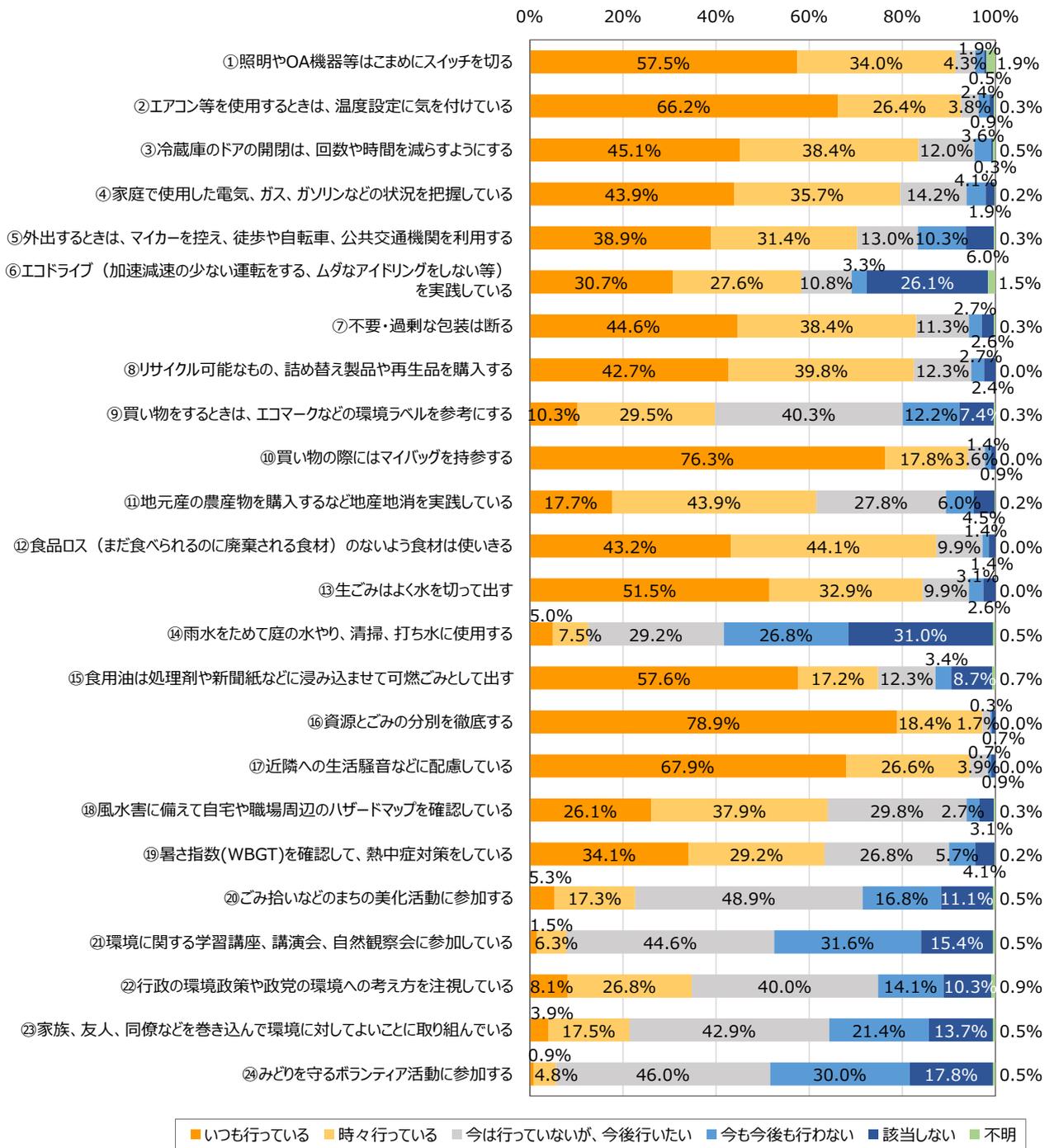
2-4 環境に関する取組状況について

(1) 環境に関する取組状況

問12 環境に関して、普段あなたが取り組んでいることを教えてください。それぞれの取組について、あてはまる番号1～5の中から1つだけ○で囲んでください。

普段取り組んでいる環境の取組について聞いたところ、『いつも行っている』の回答が多かったのは、「⑥資源とごみの分別を徹底する(78.9%)」、「⑩買い物際にはマイバッグを持参する(76.3%)」が7割以上の回答となっています。このほか、「⑦近隣への生活騒音などに配慮している(67.9%)」、「②エアコン等を使用するときは、温度設定に気を付けている(66.2%)」は6割以上の回答となっています。これらの取組については、『時々行っている』と合わせると9割以上が取り組んでいる結果となりました。

『今は行っていないが、今後行いたい』については、「⑩ごみ拾いなどのまちの美化活動に参加する(48.9%)」、「④みどりを守るボランティア活動に参加する(46.0%)」、「④環境に関する学習講座、講演会、自然観察会に参加している(44.6%)」が多くなっています。一方、「②環境に関する学習講座、講演会、自然観察会に参加している(31.6%)」と「④みどりを守るボランティア活動に参加する(30.0%)」は『今も今後も行わない』の回答の上位にもなっています。



<前回調査との比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		いつも行っている	いつも行っている	時々行っている	時々行っている
①	照明やOA機器等はこまめにスイッチを切る	57.5%	68.1%	34.0%	26.8%
③	冷蔵庫のドアの開閉は、回数や時間を減らすようにする	45.1%	55.5%	38.4%	31.6%
⑤	外出するときは、マイカーを控え、 徒歩や自転車、公共交通機関を利用する	38.9%	39.4%	31.4%	34.5%
⑦	不要・過剰な包装は断る	44.6%	44.0%	38.4%	44.5%
⑧	リサイクル可能なもの、詰め替え製品や再生品を購入する	42.7%	50.1%	39.8%	38.1%
⑨	買い物をするときは、エコマークなどの環境ラベルを参考にする	10.3%	11.1%	29.5%	33.4%
⑩	買い物の際にはマイバッグを持参する	76.3%	55.9%	17.8%	32.2%
⑬	生ごみはよく水を切って出す	51.5%	75.0%	32.9%	17.2%
⑭	雨水をためて庭の水やり、清掃、打ち水に使用する	5.0%	3.7%	7.5%	5.5%
⑮	食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す	57.6%	72.3%	17.2%	10.5%
⑯	資源とごみの分別を徹底する	78.9%	85.7%	18.4%	11.8%

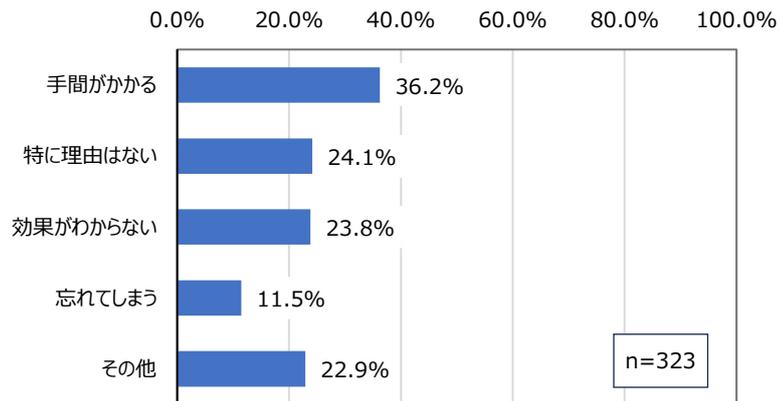
NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		今は行っていない が、今後行いたい	今は行っていない が、今後行いたい	今も今後も行わない	今も今後も行わない
①	照明やOA機器等はこまめにスイッチを切る	4.3%	2.9%	1.9%	1.2%
③	冷蔵庫のドアの開閉は、回数や時間を減らすようにする	12.0%	7.5%	3.6%	3.5%
⑤	外出するときは、マイカーを控え、 徒歩や自転車、公共交通機関を利用する	13.0%	8.5%	10.3%	9.2%
⑦	不要・過剰な包装は断る	11.3%	6.2%	2.7%	1.7%
⑧	リサイクル可能なもの、詰め替え製品や再生品を購入する	12.3%	6.4%	2.7%	1.8%
⑨	買い物をするときは、エコマークなどの環境ラベルを参考にする	40.3%	35.5%	12.2%	12.5%
⑩	買い物の際にはマイバッグを持参する	3.6%	5.3%	1.4%	2.8%
⑬	生ごみはよく水を切って出す	9.9%	2.2%	3.1%	1.0%
⑭	雨水をためて庭の水やり、清掃、打ち水に使用する	29.2%	21.9%	26.8%	33.0%
⑮	食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す	12.3%	5.5%	3.4%	1.1%
⑯	資源とごみの分別を徹底する	1.7%	1.0%	0.3%	0.1%

(2) 環境に関する取組を今後も行わない理由

問13 問12で1つ以上「今も今後も行わない」と回答した方にご質問します。取り組むのは難しい理由としてあてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境活動に取り組まない理由を聞いたところ、「手間がかかる（36.2%）」が最も多く、次いで、「特に理由はない（24.1%）」、「効果がわからない（23.8%）」となっています。

その他の回答では、時間に余裕がない、参加の仕方がわからない、体力的に難しい、他に重要事項（優先事項）があるなどが理由として挙げられています。



◆その他回答（抜粋）

- 利便性
- ボランティア活動等の参加の仕方がわからない
- 時間に余裕がないため
- 年齢的に難しい、体力的にむずかしい
- 面倒臭いからです
- 公共交通機関を利用したくても交通の便がよくない
- 情報を得るのが難しい
- 他に重要事項（優先事項）がある
- 人を巻き込むのは好ましくない
- 講演会などに参加する時間が合わないため
- 快適さを重視
- 必要性を感じていない
- 興味が湧かない

など

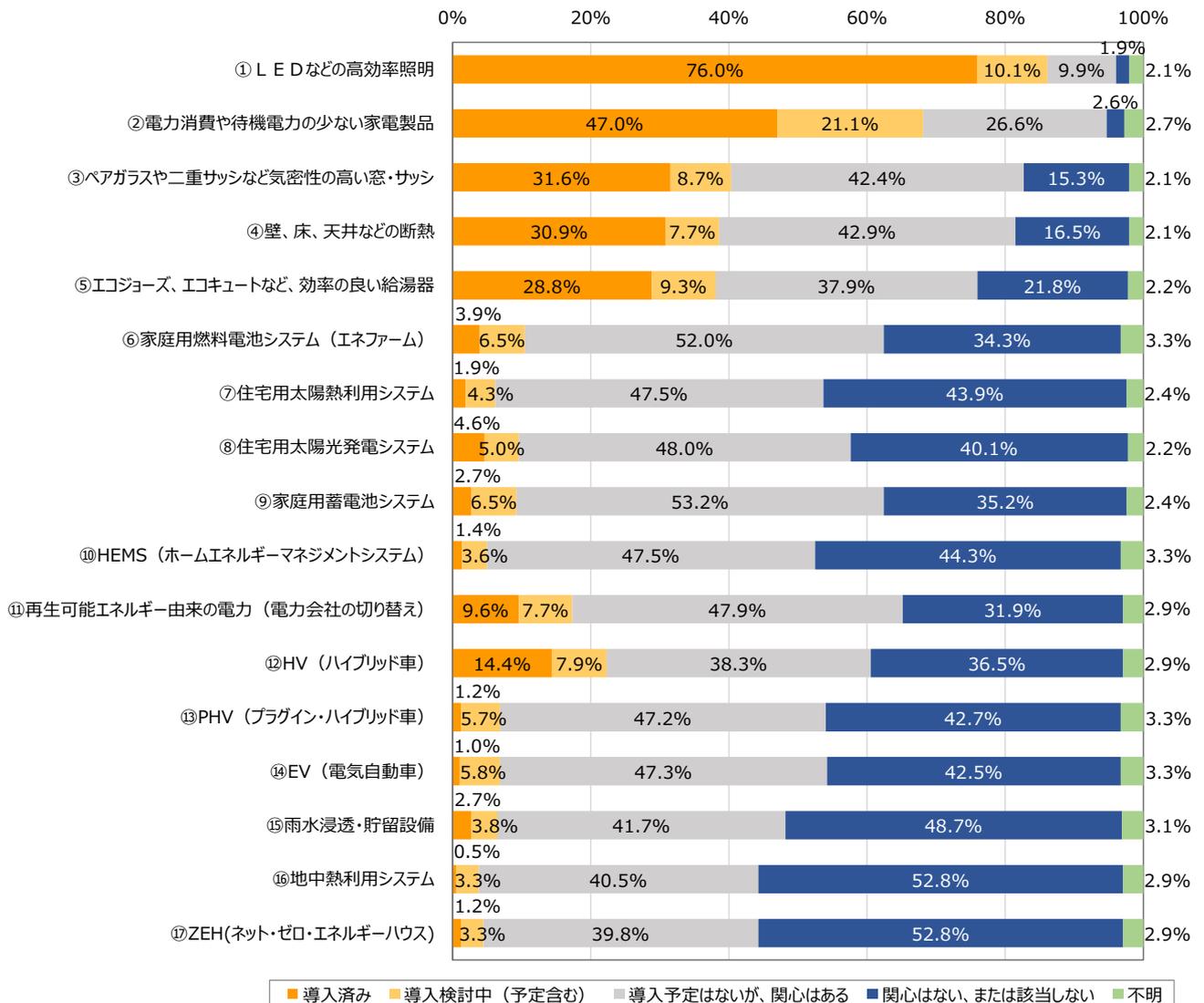
(3) 地球温暖化対策設備機器の導入状況

問14 地球温暖化対策につながる次の項目について、あなたの世帯で導入しているものはありますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1~4の中から1つだけ○で囲んでください。

地球温暖化防止につながる機器や設備などの導入状況を聞いたところ、『導入済み』は「①LEDなどの高効率照明（76.0%）」が最も高く、「②電力消費や待機電力の少ない家電製品（47.0%）」、「③ペアガラスや二重サッシなど気密性の高い窓・サッシ（31.6%）」、「④壁、床、天井などの断熱（30.9%）」、「⑤エコジョーズ、エコキュートなど、効率の良い給湯器（28.8%）」と続いています。『導入検討中（予定含む）』の回答率も比較的高い傾向にあり、住居形態に関係なく導入できるものであることから、導入率が高い結果となりました。

また、『導入予定はないが、関心はある』については、「⑨家庭用蓄電池システム（53.2%）」、「⑥家庭用燃料電池システム（エネファーム）（52.0%）」の回答率が高く5割以上の回答となっています。

なお、下記項目中①~⑭までの機器もしくは設備について、5割以上が少なくとも関心は持っている傾向がみられました。



<前回調査との参考比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度
		導入済み	導入済み
①	LEDなどの高効率照明	76.0%	71.3%
③	ペアガラスや二重サッシなど気密性の高い窓・サッシ	31.6%	29.4%
⑤	エコジョーズ、エコキュートなど、効率の良い給湯器	28.8%	21.5%
⑦	住宅用太陽熱利用システム	1.9%	0.7%
⑧	住宅用太陽光発電システム	4.6%	5.8%
⑩	HEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）	1.4%	1.2%
⑪	再生可能エネルギー由来の電力（電力会社の切り替え）	9.6%	3.9%

※項目及び選択肢の表現が前回調査時と異なるため、参考比較としています。

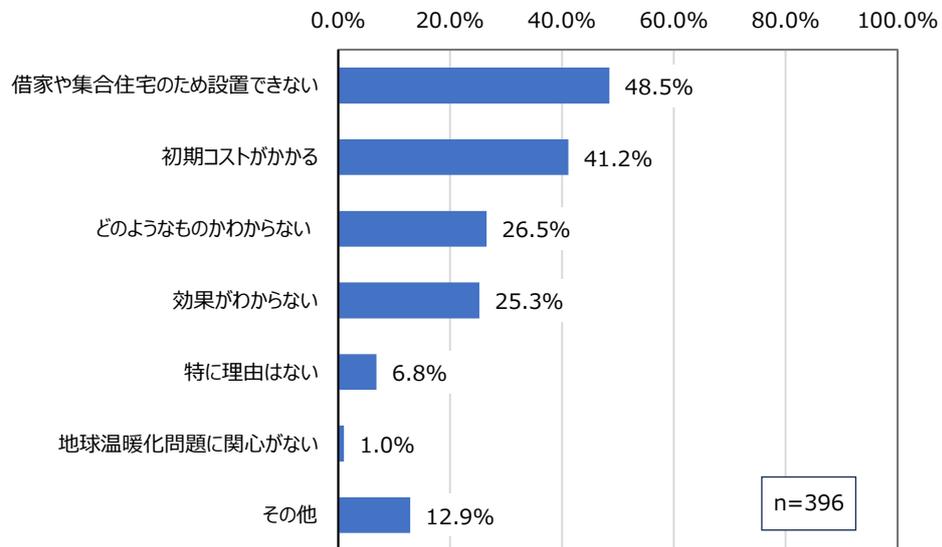
(4) 地球温暖化対策設備機器を導入しない理由

問15 問14で1つ以上「関心はない、または該当しない」と回答した方にご質問します。理由としてあてはまる番号すべてを○で囲んでください。

地球温暖化対策設備機器を導入しない理由を聞いたところ、「借家や集合住宅のため設置できない(48.5%)」が最も多く、次いで「初期コストがかかる(41.2%)」、「どのようなものかわからない(26.5%)」、「効果がわからない(25.3%)」となっています。

また、その他の回答から、費用対効果に疑問がある、維持費がかかる、使用済みバッテリーの処理方法への不安なども理由として挙げられていました。

「地球温暖化問題に関心がない(1.0%)」の回答率が低いことから、地球温暖化対策に取り組む必要性は認知されている一方、導入の妨げとなっている維持費を含めた費用面をはじめとした課題解決が導入率向上のために必要と考えられます。また、設備そのものの不安に対応する適切な情報提供が求められています。



◆その他回答（抜粋）

- 内容が難しそう
 - 日当たりが悪いので付けられない
 - 採算が取れない。費用対効果が疑わしい。
 - 故障、経年劣化等により環境悪化が考えられる
 - 家が古いため
 - メンテナンス費が気掛かり
 - 太陽光パネルにしても売電が安すぎるし、期間があるのが不満
 - 低周波音、電化の電磁波が苦手
 - バッテリーなど使用済になったものの処理設備が整っていない
 - 大規模災害が発生してしまうと、あちらこちらに充電切れの車輛が放置され更なる混乱を招く
 - 環境問題と同等に家庭に利益を生まないと、導入する気にはなれない
 - 再生可能エネルギーの発電効率や安定性を信用していないため
- など

(5) 市の環境情報の入手方法

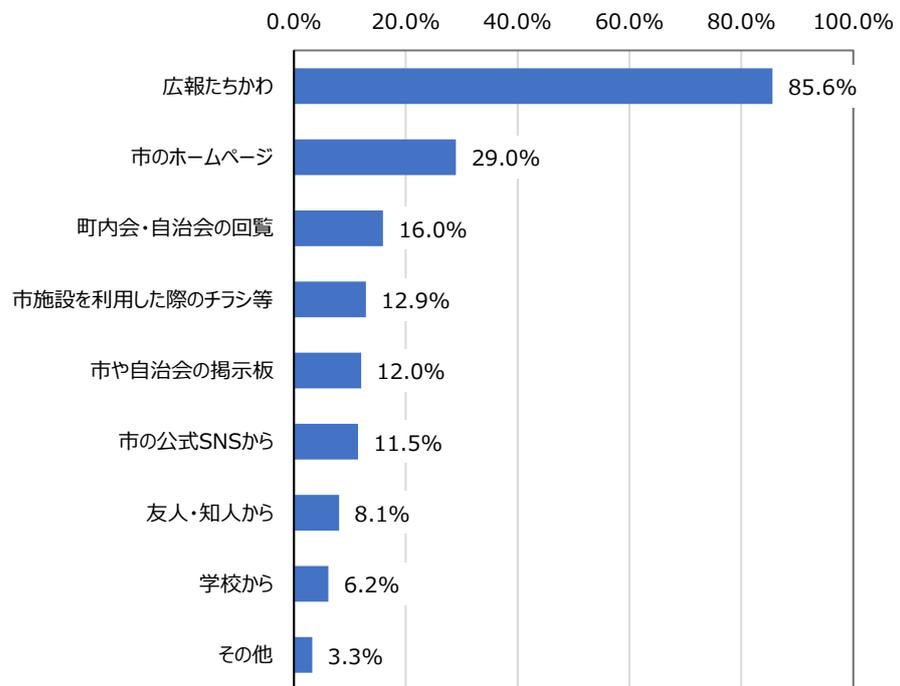
問 1 6 市の環境に関する情報をどのような方法で入手していますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

問 1 7 上記以外で入手しやすい方法がありますか。ご自由にご記入ください。

市の環境情報の入手方法を聞いたところ、「広報たちかわ (85.6%)」が最も多い結果となりました。次いで、「市のホームページ (29.0%)」、「町内会・自治会の回覧 (16.0%)」、となっています。

その他の入手方法として、新聞や「いいね立川」等のメディアなどが挙げられています。

このほか、入手しやすい方法を聞いたところ、WEB の活用、駅や商業施設、学校での掲示やアナウンス、メールマガジンや LINE などの SNS などが挙げられました。



◆その他の入手方法（抜粋）

- 市から配布されたゴミカレンダー
- 多摩エコニュース
- 新聞
- 病院
- 家族から
- 家のまわりや近所
- シルバー人材センター
- 「いいね立川」という web サイト、自分で散歩中に色々発見
- ネット必要なら検索
- 情報を入手していない
- 興味がないのでみない

など

◆その他入手しやすい方法（抜粋）

- SNS が便利で利用しやすい。ごみ分別アプリなど
- 立川市のごみアプリのように、立川市の情報アプリがあると良いかなと思います。
- 市のアプリ等があって、情報を見たり、コメントが自由にできて意見交換したり、知りたいことがすぐ知れたりするものがあれば嬉しい！けど、お年寄りの方は使えない…？ポイントなどももらえる仕組みにすれば関心も広がる。
- 紙媒体は資源のムダ使いと思い、主にパソコン、携帯を利用している。「広報たちかわ」は読みやすくとても良い。
- 自分からホームページを見ることはないので、やはり広報が一番良いと思う。自然に目に止まる。
- 「いいね立川」（Web メディア）
- パソコンを利用するので、必要に応じてホームページを見ます。でも必ずしも入手したい情報がすぐに見つからないことも多く感じます。
- 必要な情報のみをプッシュ型でお知らせしてほしい。
- 逆にコンタクトポイントが多すぎて混乱する。
- 子どもからの話とかなら絶対に耳に入ると思います。
- ODM など
- 見守りメールのようにメールで送信
- 積極的に情報を取りに行く方であれば問 16 のどのような手段でも構いませんが、積極的に情報を取りに行かない立場ですと回覧が望ましいと思う。
- 学校や職場、スーパーや駅で配布してほしい。
- カフェ等にシンプルなチラシの配布を希望。さっと読んで情報収集できます。
- 駅、スーパー、人の出が多いところ
- 駅前に掲示板等で表示があると。
- 新聞
- 市議会議員より、市政報告会等に参加した際に情報を知ることができる。
- 自治会に積極的に参加すること。
- LINE は便利だと思いました。
- 有志団体の SNS
- まずはどんな人をターゲットに何を発信したいかを考えてはいかがでしょうか。必然、方法は決まるのではないのでしょうか。
- 入手しやすいことはありません

など

2-5 自由意見

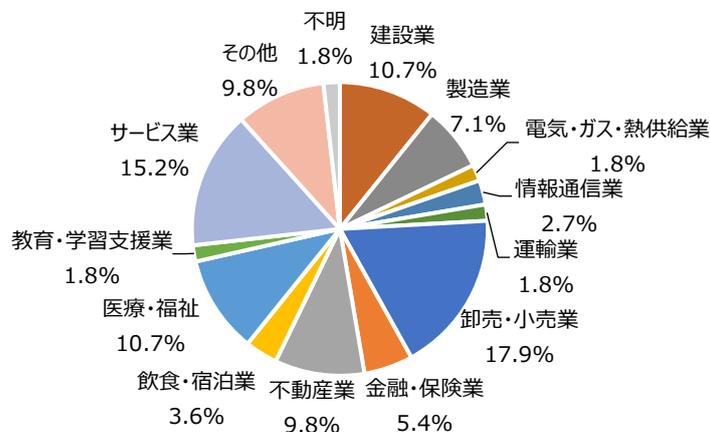
最後に、環境に関わる意見等を自由記述形式で求めたところ、169人（29.0%）の方からの記入がありました。以下は、記入内容を分類し表にまとめたものです。一人で複数の意見を記入している場合は、それぞれ1件として数えているため、延べ件数は●件となりました。

※記述内容の取りまとめについては、最終報告書にて追記いたします

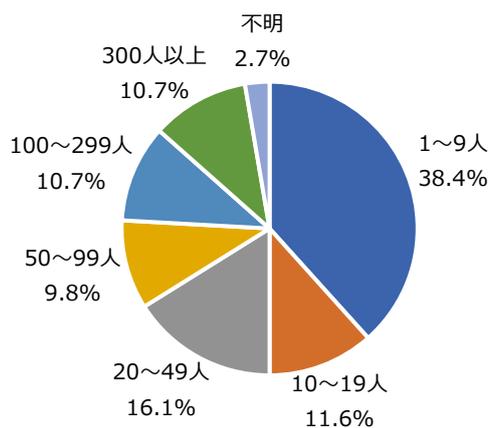
3 事業者アンケート調査の結果

3-1 事業所の属性について

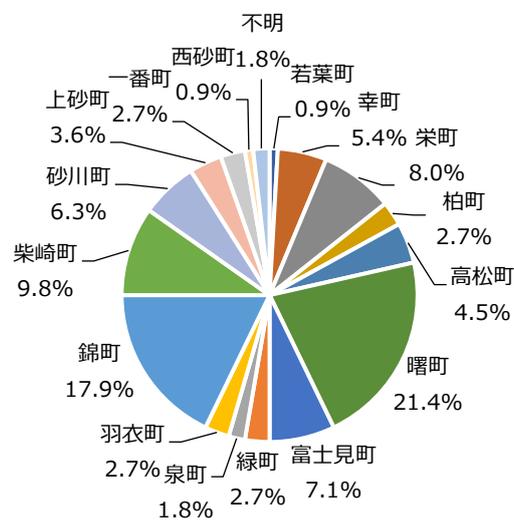
(1) 業種



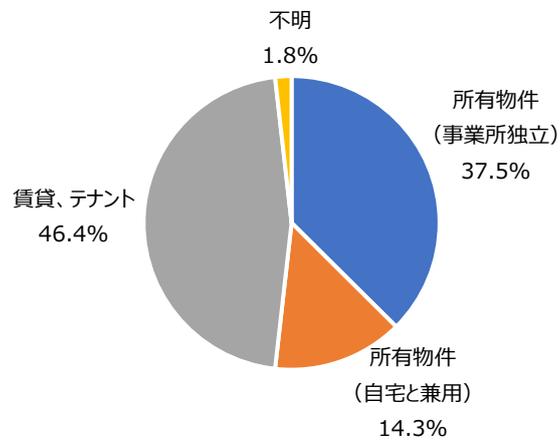
(2) 従業員規模



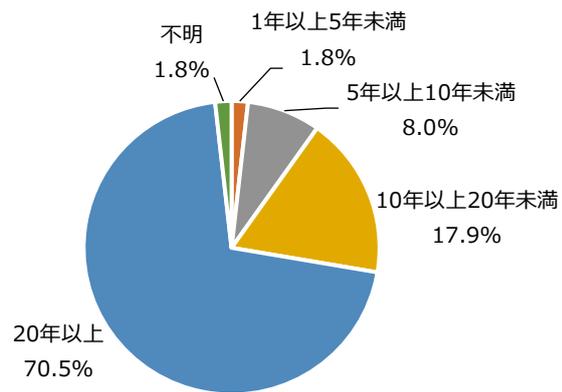
(3) 所在地



(4) 建物の形態



(5) 立川市での事業年数



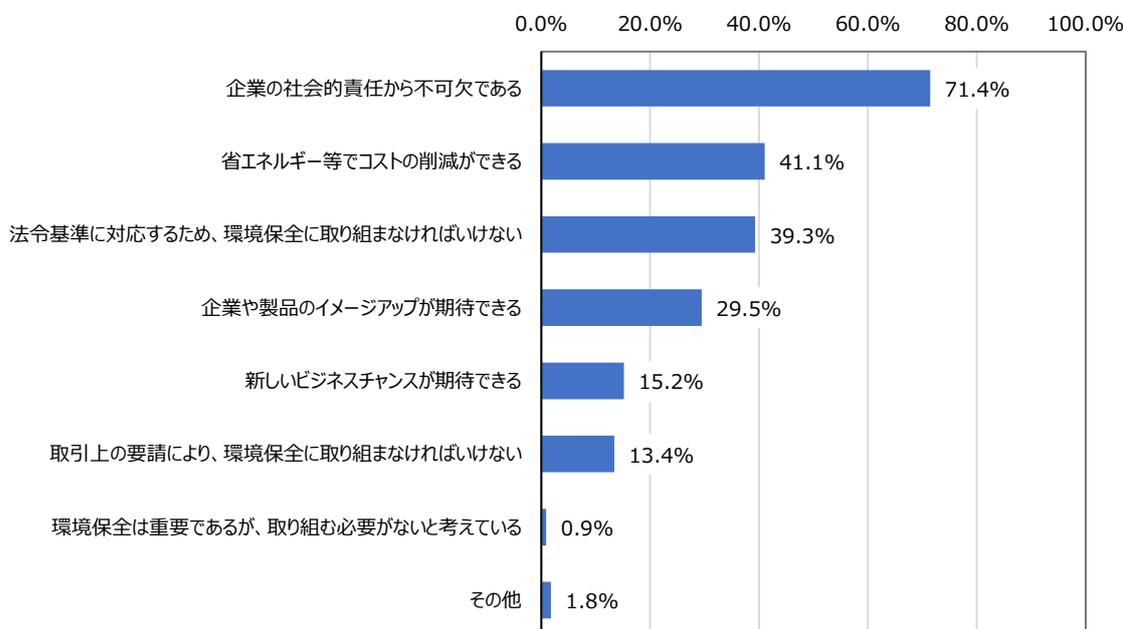
3-2 立川市の環境に対する考えや認識について

(1) 環境保全への取組に対する考え方

問6 事業活動における環境保全への取組について、貴事業所の考えにあてはまるものはどれですか。あてはまるものすべて○で囲んでください。

環境保全への取組に対する考え方を聞いたところ、「企業の社会的責任から不可欠である(71.4%)」が最も多く、次いで、「省エネルギー等でコストの削減ができる(41.1%)」、「法令基準に対応するため、環境保全に取り組まなければいけない(39.3%)」と続いています。

「環境保全は重要であるが、取り組む必要がないと考えている(0.9%)」の回答は少なく、ほとんどの事業所が環境保全への取組への必要性を感じています。



<前回調査との比較>

NO.	カテゴリー名	令和5年度	平成30年度
1	企業の社会的責任から不可欠である	71.4%	78.2%
2	新しいビジネスチャンスが期待できる	15.2%	14.1%
3	企業や製品のイメージアップが期待できる	29.5%	29.5%
4	省エネルギー等でコストの削減ができる	41.1%	38.5%
5	取引上の要請により、環境保全に取り組まなければいけない	13.4%	15.4%
6	法令基準に対応するため、環境保全に取り組まなければいけない	39.3%	39.7%
7	環境保全は重要であるが、取り組む必要がないと考えている	0.9%	2.6%
8	その他	1.8%	3.8%
	不明	6.3%	0.0%

3-3 事業所の環境活動について

(1) 事業所で取り組んでいる環境活動

問7-1 貴事業所では、どのような環境活動に取り組んでいますか。それぞれの項目について、当てはまる番号1~4の中から1つだけ○で囲んでください。

問7-2 このほか、貴事業所が取り組まれている環境活動がありましたら、ご記入ください。

事業所の環境活動について聞いたところ、実施率が高かったのは、「⑥廃棄物の適正処理（81.3%）」で8割以上の回答となっています。次いで、「⑰節電等の省エネルギーの取り組み（75.9%）」、「⑭エコマーク商品や古紙を再利用したコピー用紙など環境にやさしい商品の利用（73.2%）」で7割以上の事業者で取り組まれています。

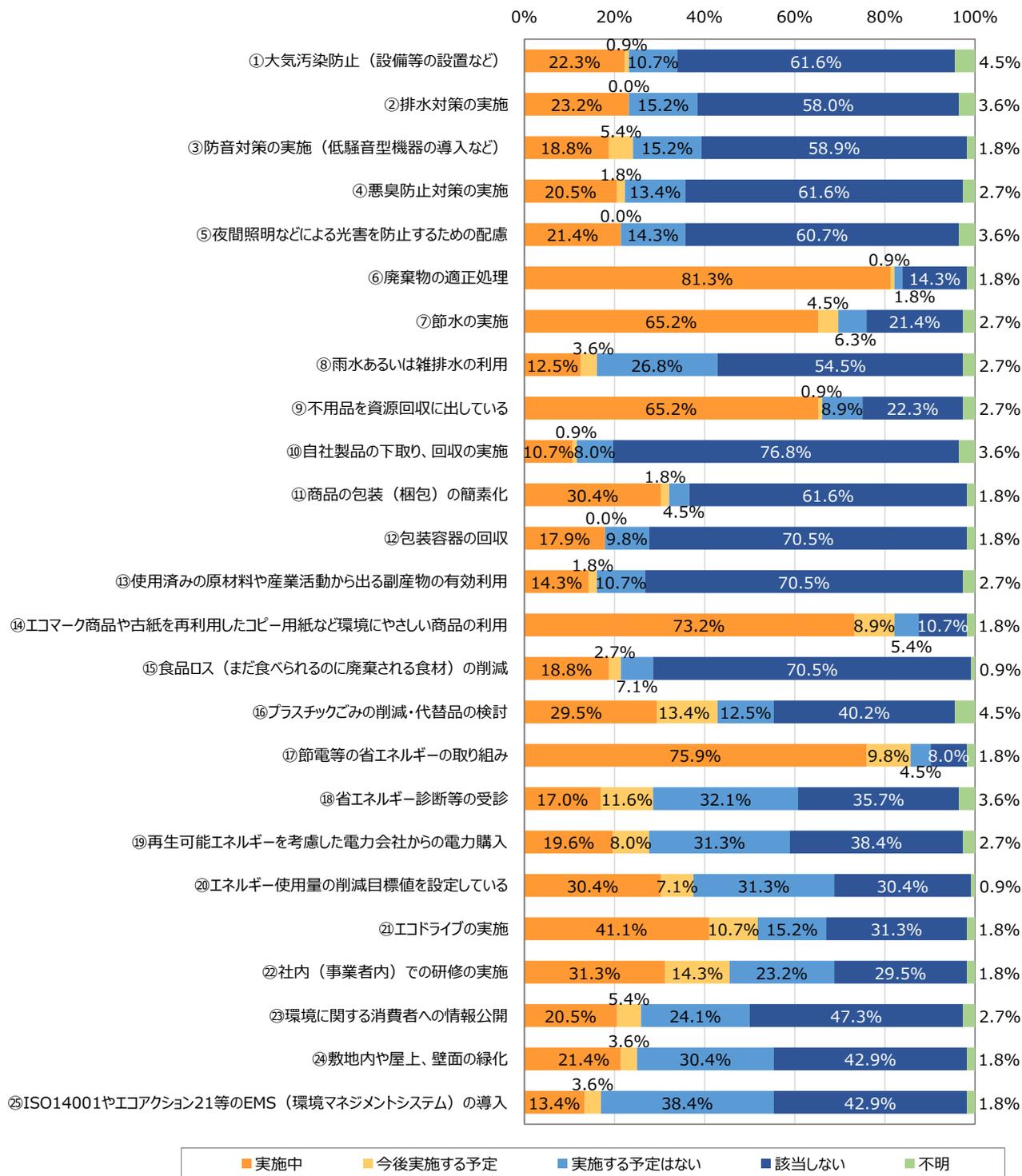
『今後実施する予定』の回答率が高かったのは、「⑳社内（事業者内）での研修の実施（14.3%）」、「㉑プラスチックごみの削減・代替品の検討（13.4%）」、「㉒省エネルギー診断等の受診（11.6%）」、「㉓エコドライブの実施（10.7%）」で1割以上の回答となっています。

一方、『実施する予定はない』の回答率が高かったのは、「㉔ISO14001やエコアクション21等のEMS（環境マネジメントシステム）の導入（38.4%）」、「㉒省エネルギー診断等の受診（32.1%）」、「㉕再生可能エネルギーを考慮した電力会社からの電力購入（31.3%）」、「㉖エネルギー使用量の削減目標値を設定している（31.3%）」となっています。

◆その他の環境活動（抜粋）

○ペットボトルのキャップを回収し、環境団体に寄付（ワクチン購入代）
○太陽熱を活用した暖房や気化熱を活用した冷房といったエコハウス仕様（エクセルギーハウス）になっている
○FSC 認証制度への登録

など



<前回調査との比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		実施中	実施中	今後実施する 予定	今後実施する 予定
⑤	夜間照明などによる光害を防止するための配慮	21.4%	23.1%	0.0%	2.6%
⑥	廃棄物の適正処理	81.3%	76.9%	0.9%	0.0%
⑦	節水の実施	65.2%	75.6%	4.5%	3.8%
⑧	雨水あるいは雑排水の利用	12.5%	3.8%	3.6%	3.8%
⑨	不用品を資源回収に出している	65.2%	75.6%	0.9%	3.8%
⑩	自社製品の下取り、回収の実施	10.7%	14.1%	0.9%	0.0%
⑪	商品の包装（梱包）の簡素化	30.4%	38.5%	1.8%	1.3%
⑫	包装容器の回収	17.9%	16.7%	0.0%	1.3%
⑬	使用済みの原材料や産業活動から出る副産物の有効利用	14.3%	24.4%	1.8%	7.7%
⑭	エコマーク商品や古紙を再利用したコピー用紙など 環境にやさしい商品の利用	73.2%	66.7%	8.9%	11.5%
⑰	節電等の省エネルギーの取り組み	75.9%	79.5%	9.8%	7.7%
⑲	再生可能エネルギーを考慮した電力会社からの電力購入	19.6%	6.4%	8.0%	10.3%
㉑	エコドライブの実施	41.1%	44.9%	10.7%	7.7%
㉒	社内（事業者内）での研修の実施	31.3%	16.7%	14.3%	12.8%
㉓	環境に関する消費者への情報公開	20.5%	15.4%	5.4%	5.1%

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		実施する 予定はない	実施する 予定はない	該当しない	該当しない
⑤	夜間照明などによる光害を防止するための配慮	14.3%	6.4%	60.7%	59.0%
⑥	廃棄物の適正処理	1.8%	0.0%	14.3%	19.2%
⑦	節水の実施	6.3%	10.3%	21.4%	5.1%
⑧	雨水あるいは雑排水の利用	26.8%	34.6%	54.5%	48.7%
⑨	不用品を資源回収に出している	8.9%	10.3%	22.3%	5.1%
⑩	自社製品の下取り、回収の実施	8.0%	12.8%	76.8%	61.5%
⑪	商品の包装（梱包）の簡素化	4.5%	3.8%	61.6%	43.6%
⑫	包装容器の回収	9.8%	10.3%	70.5%	62.8%
⑬	使用済みの原材料や産業活動から出る副産物の有効利用	10.7%	16.7%	70.5%	43.6%
⑭	エコマーク商品や古紙を再利用したコピー用紙など 環境にやさしい商品の利用	5.4%	6.4%	10.7%	5.1%
⑰	節電等の省エネルギーの取り組み	4.5%	3.8%	8.0%	5.1%
⑲	再生可能エネルギーを考慮した電力会社からの電力購入	31.3%	43.6%	38.4%	26.9%
㉑	エコドライブの実施	15.2%	10.3%	31.3%	29.5%
㉒	社内（事業者内）での研修の実施	23.2%	32.1%	29.5%	28.2%
㉓	環境に関する消費者への情報公開	24.1%	24.4%	47.3%	41.0%

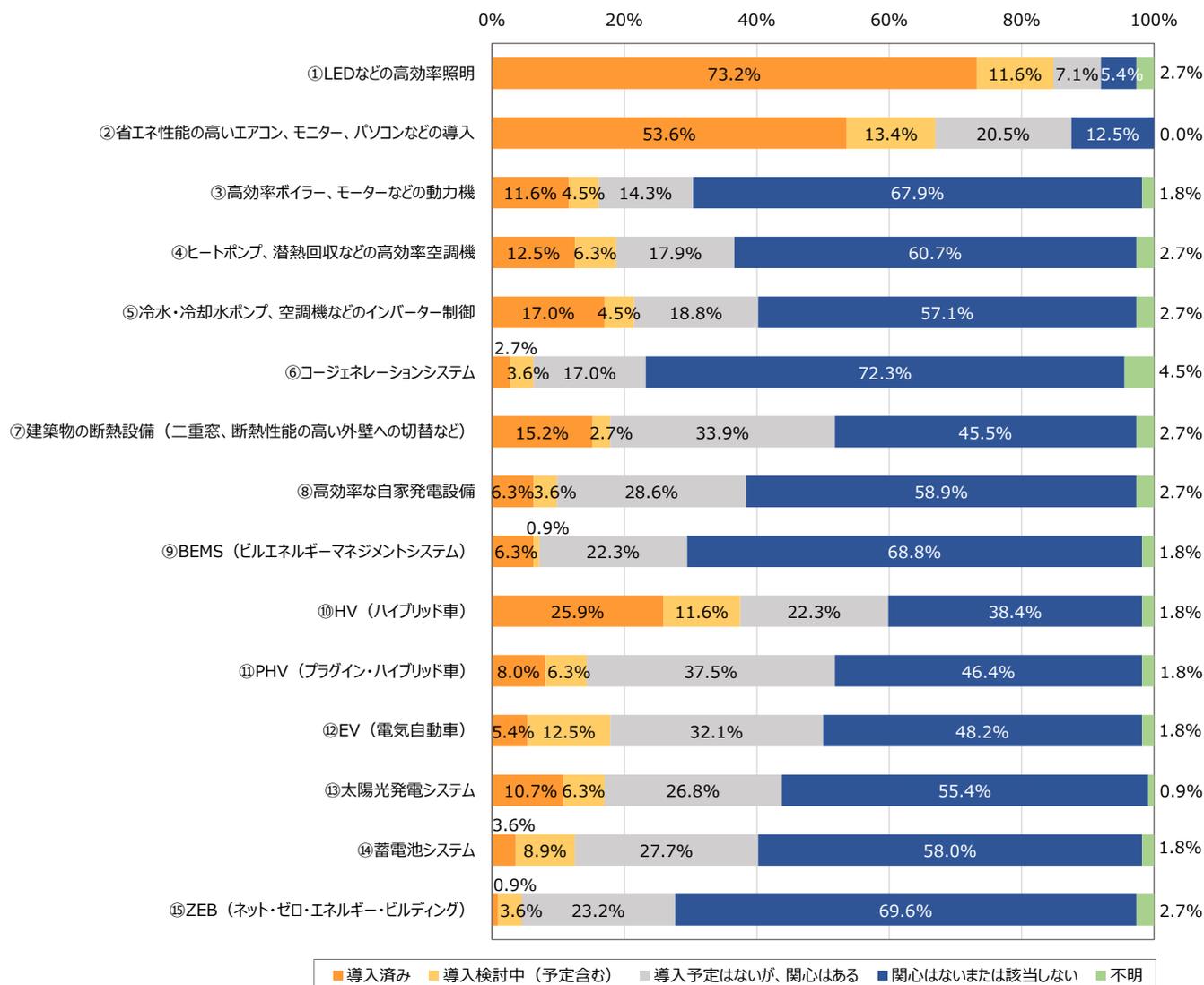
(2) 地球温暖化対策設備機器の導入状況

問8 貴事業所では、地球温暖化防止につながる機器や設備を導入していますか。それぞれの項目について、当てはまる番号1～4の中から1つだけ○で囲んでください。

地球温暖化対策設備機器の導入状況について聞いたところ、『導入済み』と回答した割合は、「①LEDなどの高効率照明（73.2%）」が最も高く、次いで「②省エネ性能の高いエアコン、モニター、パソコンなどの導入（53.6%）」となっています。

また、『導入検討中（予定含む）』については、上記2項目のほか、「⑫EV（電気自動車）（12.5%）」、「⑩HV（ハイブリッド車）（11.6%）」、が多い結果となりました。

『導入予定はないが、関心はある』については、「⑪PHV（プラグイン・ハイブリッド車）（37.5%）」、「⑦建築物の断熱設備（二重窓、断熱性能の高い外壁への切替など）（33.9%）」、「⑫EV（電気自動車）（32.1%）」で回答率が高くなっています。



<前回調査との参考比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		導入済み	実施中	導入検討中 (予定含む)	今後実施する 予定
①	LEDなどの高効率照明	73.2%	59.0%	11.6%	20.5%
⑥	コージェネレーションシステム	2.7%	2.6%	3.6%	0.0%
⑦	建築物の断熱設備 (二重窓、断熱性能の高い外壁への切替など)	15.2%	14.1%	2.7%	9.0%
⑩	HV (ハイブリッド車)	25.9%	24.4%	11.6%	15.4%
⑬	太陽光発電システム	10.7%	5.1%	6.3%	3.8%

※項目及び選択肢の表現が前回調査時と異なるため、参考比較としています。

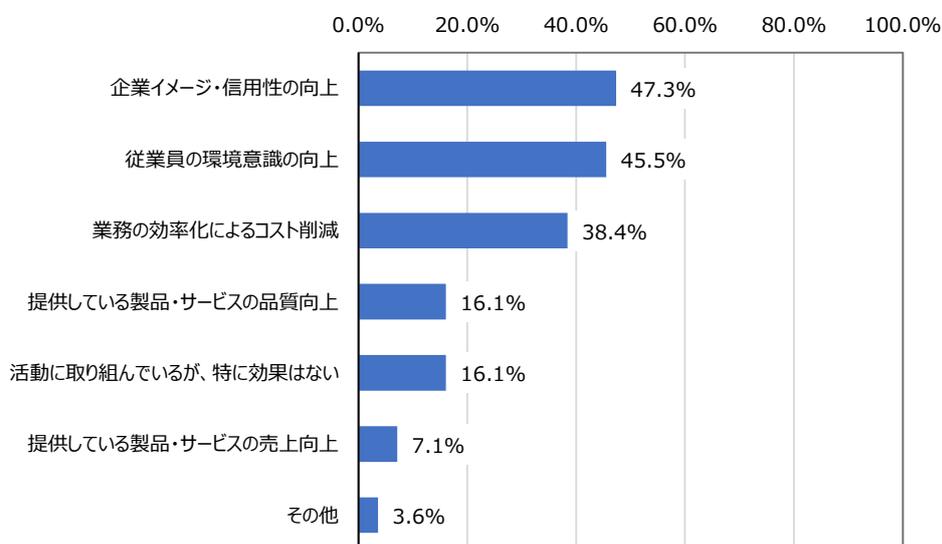
3-4 環境活動における効果と課題について

(1) 環境活動で得られた効果

問9 貴事業所が、環境活動に取り組んだことで得られた効果は何ですか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境活動で得られた効果を聞いたところ、「企業イメージ・信用性の向上（47.3%）」が最も多く、次いで、「従業員の環境意識の向上（45.5%）」、「業務の効率化によるコスト削減（38.4%）」となっています。

「特に効果はなかった（16.1%）」は全体の2割未満の回答率となっています。



◆その他回答（抜粋）

- 電気代の削減
- 管理コストの削減、法令遵守
- 会員事業所が省エネ等対応してもらっていること

など

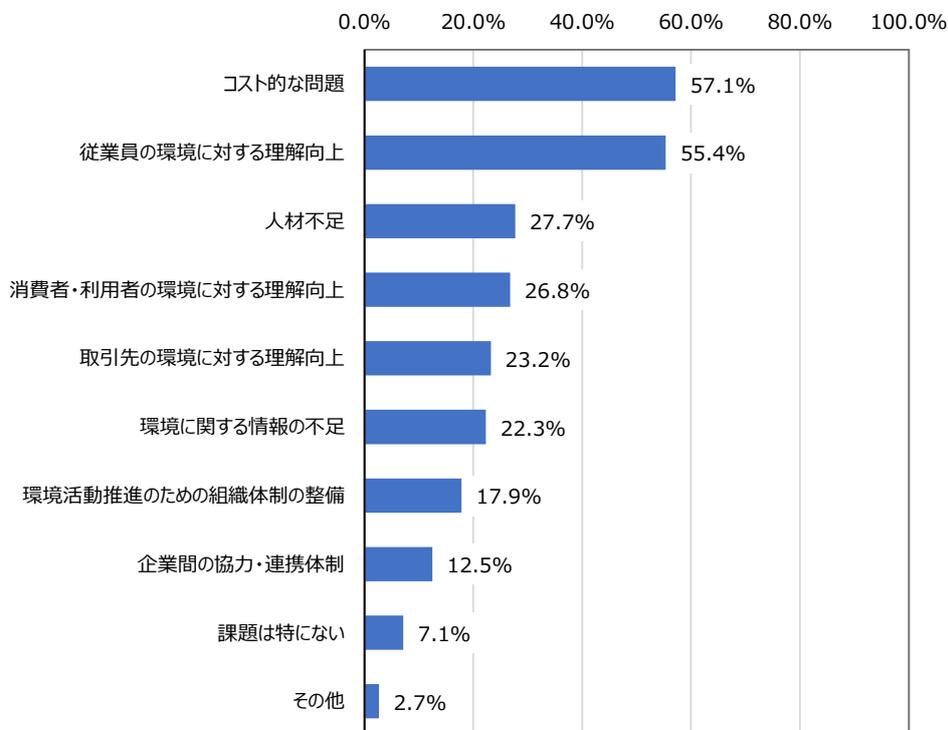
(2) 環境活動を進めるにあたっての課題

問10 貴事業所が、環境活動を進めるにあたり、どのようなことが課題であるとお考えですか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境活動に対する課題を聞いたところ、「コスト的な問題（57.1%）」と「従業員の環境に対する理解向上（55.4%）」で5割以上の回答率となりました。

このほか、「人材不足（27.7%）」、「消費者・利用者の環境に対する理解向上（26.8%）」、「取引先の環境に対する理解向上（23.2%）」、「環境に関する情報の不足（22.3%）」が2割以上の回答率となっています。

その他の回答として、ビルオーナーの意識向上が挙げられており、本調査の回答者事業者の約半分が賃貸・テナントであることも踏まえ、ビル所有者と連携した建物の省エネ化など、対策を進めていくことが求められていることが伺えます。



◆その他回答（抜粋）

○ビルオーナーの意識向上
○会社事業の特性上、省エネ以外にできることはない

など

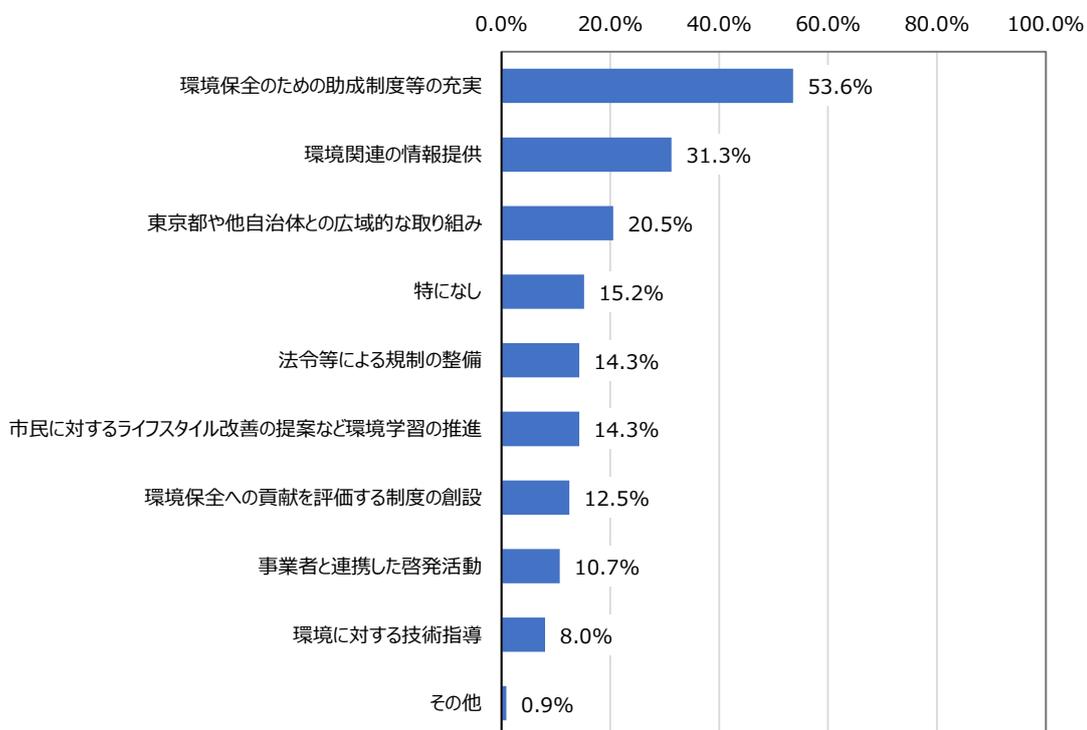
3-5 望ましい支援について

(1) 市が実施すると望ましいサポート

問 1 1 貴事業所において、環境活動を進めるにあたり、市が実施すると望ましいサポート等がありますか。あてはまる番号を3つまで○で囲んでください。

市が実施すると望ましいサポートについて聞いたところ、「環境保全のための助成制度等の充実（53.6%）」が最も多く、次いで、「環境関連の情報提供（31.3%）」、「東京都や他自治体との広域的な取り組み（20.5%）」となっています。

問 1 0 の環境活動を進めるにあたっての課題で最も回答率が高かったコスト的な問題と対応し、費用面でのサポートや情報提供の充実が求められていることが伺えます。



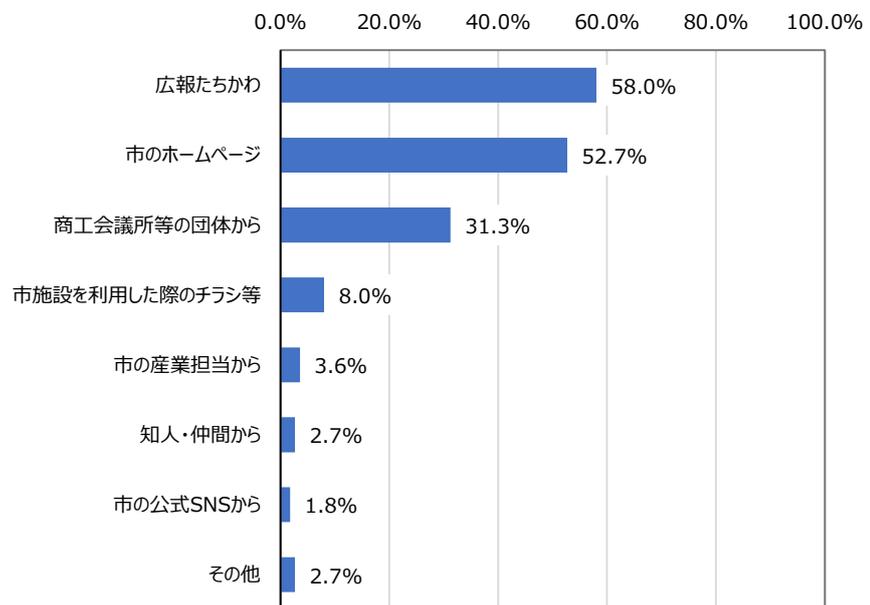
(2) 市の環境情報の入手方法

問12 貴事業所では、市の環境に関する情報をどのような方法で入手していますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

問13 貴事業所では、上記以外で入手しやすい方法がありますか。ご自由にご記入ください。

市の環境情報の入手方法を聞いたところ、「広報たちかわ（58.0%）」が最も多く、次いで、「市のホームページ（52.7%）」、「商工会議所等の団体から（31.3%）」となっています。

このほか、入手しやすい方法を聞いたところ、メールなど市から直接情報提供があるとよいなどが挙げられました。



◆その他入手しやすい方法（抜粋）

- 新しい情報はメール等で案内ほしい
- 市の担当者様より情報提供
- 他企業からの情報
- 電子メール(SNS は使用不可のため)

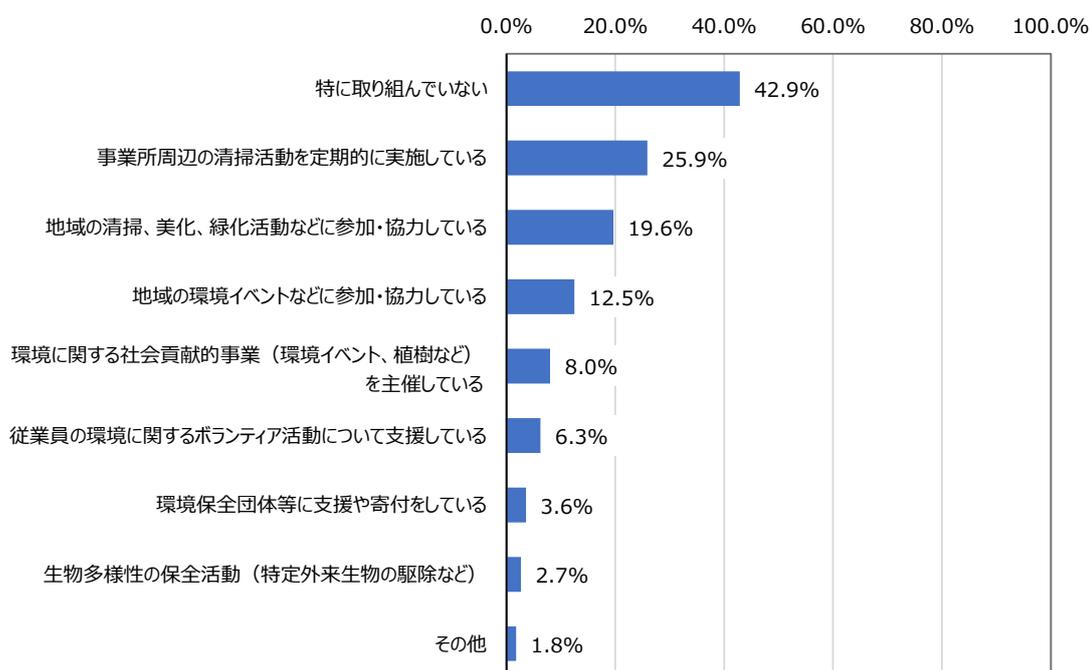
など

3-6 地域の環境活動について

(1) 取り組んでいる地域環境活動

問14 貴事業所では、地域の環境のためにどのような取組をしていますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

取り組んでいる地域の環境活動を聞いたところ、「特に取り組んでいない（42.9%）」が最も多く、次いで、「事業所周辺の清掃活動を定期的に行っている（25.9%）」、「地域の清掃、美化、緑化活動などに参加・協力している（19.6%）」となっています。身近に取り組める清掃活動への参加が中心となっています。



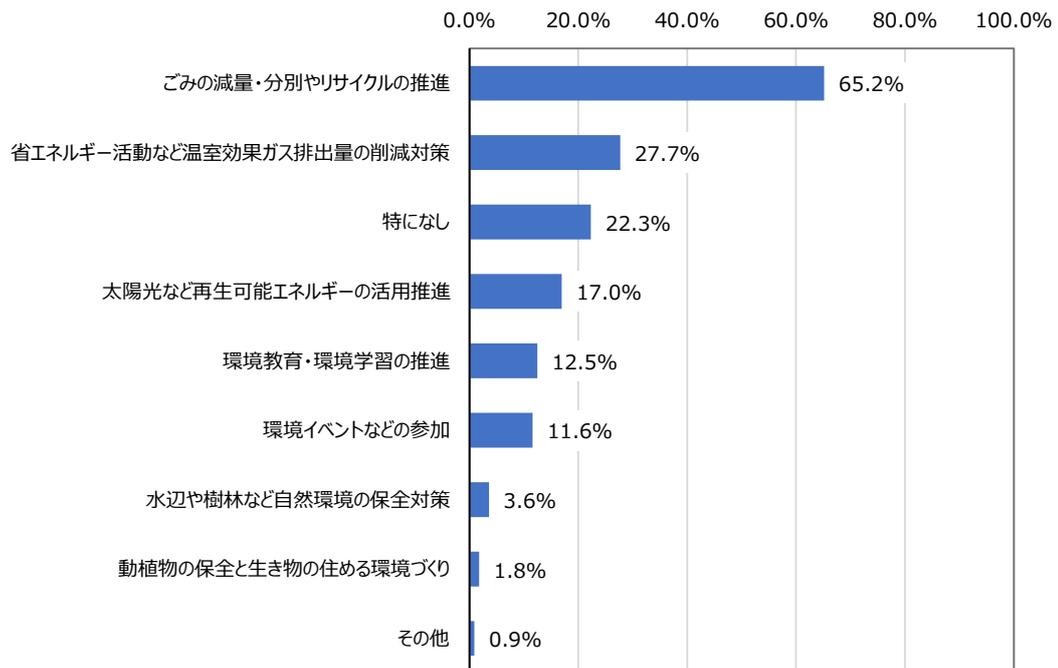
◆その他回答（抜粋）

○SDGs ツアーを企画
○市内はない など

(2) 協力、支援できる活動分野

問15 貴事業所が、市に協力、支援できる環境に関する活動分野はありますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境に関する地域活動について、協力、支援できる活動分野を聞いたところ、「ごみの減量・分別やリサイクルの推進（65.2%）」が最も多く、次いで、「省エネルギー活動など温室効果ガス排出量の削減対策（27.7%）」となっています。3R の取組と地球温暖化対策が協力しやすい分野であることが伺えます。



◆その他回答

○フードドライブ

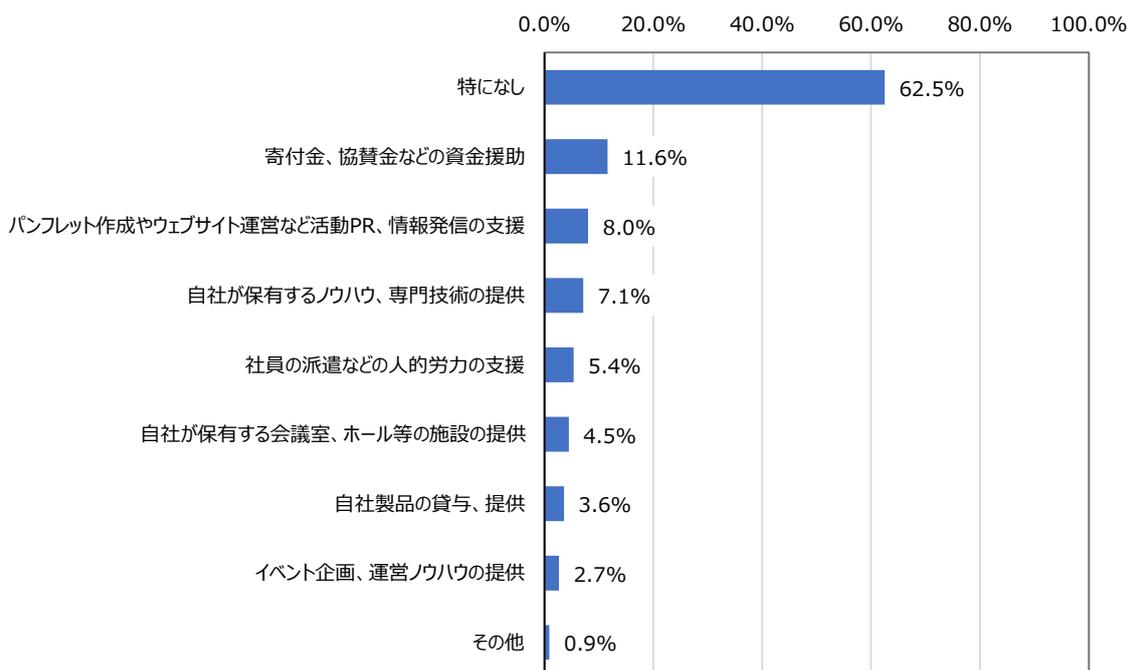
○エコキャップ活動

など

(3) 協力、支援できる取組

問 1 6 貴事業所が、市に協力、支援できる環境に関する取組はありますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境に関する地域活動について、協力、支援できる取組を聞いたところ、「特になし(62.5%)」が半数以上となっていますが、「寄付金、協賛金などの資金援助(11.6%)」、「パンフレット作成やウェブサイト運営など活動PR、情報発信の支援(8.0%)」、「自社が保有するノウハウ、専門技術の提供(7.1%)」などの回答がありました。



◆その他回答

○フードドライブ
○エコキャップ活動 など

3-7 自由意見

最後に、環境に関わる意見等を自由記述形式で求めたところ、3社（2.7%）の事業所からの記入がありました。主な意見の概要を以下に示します。

意見の概要	分野
個人でネズミ、ハクビシン、アライグマなどを捕獲した場合は、市で引き取ってほしい	生物多様性
立川駅周辺の下水道管の老朽で、悪臭漂う箇所があるようです。早期点検し、工事をお願いしたい。	生活環境
環境施策は、将来を考慮すると非常に大事な事だと思います。ただ、一般の方は、理解はすれど動かず、お金も使わない人が多いのが現状です。子供からの教育、大人への意識付け、会社としての促進の継続が大事です。立川市として、分かりやすい動画、youtube活用等、コンパクトに分かりやすく、訴求を継続して欲しいです。	情報発信 啓発活動

4 調査結果のまとめ

4-1 市民意識調査結果

※考察については、最終報告書にて追記いたします

4-2 事業者意識調査結果

※考察については、最終報告書にて追記いたします

巻末資料

1. クロス集計結果

① 年代別×環境に関する取組状況 など

**※さまざまな条件でクロス集計を実施し、
特徴が窺えた結果のみ抜粋し、最終報告書にて追記いたします**